

SNW対話イン九州工業大学 2016 事後アンケート結果 (平成 28 年 12 月 8 日開催)

纏め：廣 陽二

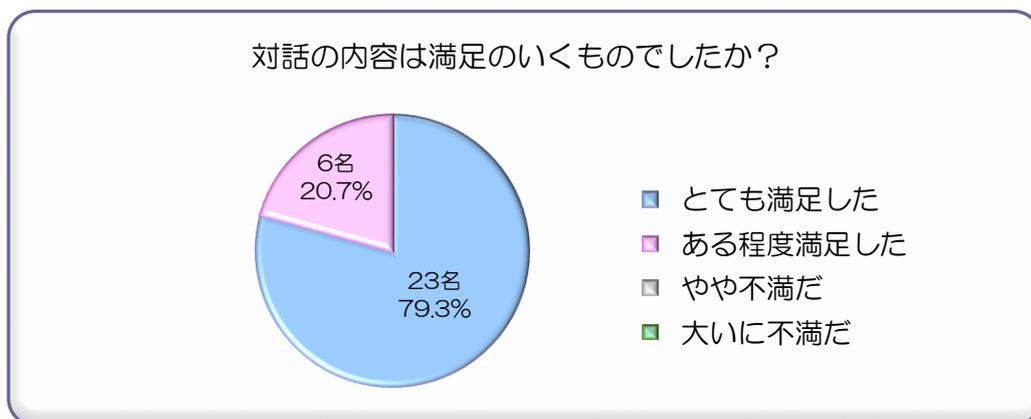
1. アンケート回答者 大学院工学府 電気電子工学科専攻1年 29名

2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	23名 (79.3%)
ある程度満足した	6名 (20.7%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

出席者全員が「とても満足した」又は「ある程度満足した」と回答している。



<理由>

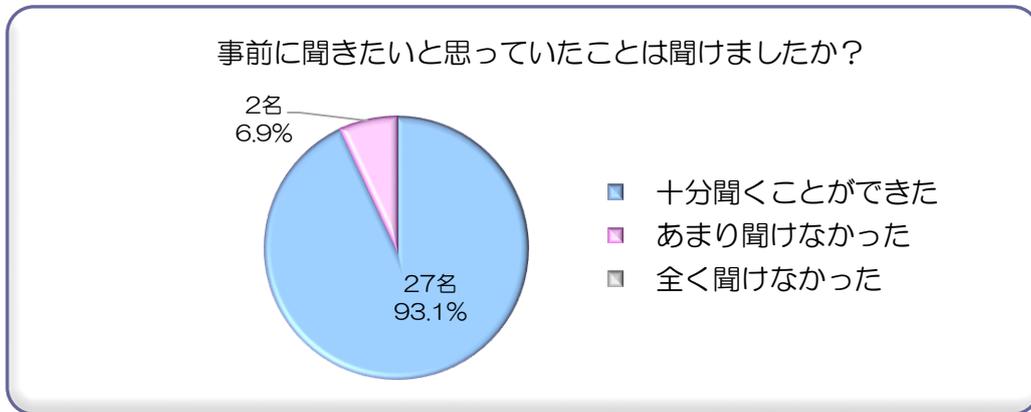
- ・ 私は、被ばくを防ぐことだけを考えていたが、放射線によるDNAの傷は栄養を取ることで回復する等、別の見方が出来ることが分かったから。
 - ・ 機会の少ないシニアとの対話ができ有意義だった。
 - ・ 実情が分かった。
 - ・ 疑問点を直接聞き、回答をもらえたから。
 - ・ 自分が知らない分野の知識を得られた。
 - ・ 質問に対して多くの情報が得られたので、有意義な時間を過ごせたから。
 - ・ 原子力の安全性を対話によって再確認できたから。
 - ・ メディア以外からの専門家の意見を聞くことができたから。
 - ・ 考えていなかった答えが返ってきて理解が深まった。
 - ・ 原子力発電に対して偏った意見しか知らなかったと分かったから。
 - ・ 福島第一原発の事故が起きた理由の他に、政治的な内面も知れたため。
 - ・ 原子力に直接関わった方達の新鮮な意見が聞けたため。

- シニアの方の説明の際に、質問の回答の根拠となる資料（データ）を見せていただきながら説明を受けられたのでよかった。
 - 今まで思っていた原子力に関するイメージとは異なる情報を得ることができた。危険なイメージから安全なイメージに変わった。
 - マスコミ等による原子力発電の悪いイメージの定着を実感した。正しい知識を身につけることで原子力発電に対する考え方を改めることができた。
 - シニアの方と対話することによって、インターネットや勉強した知識以外のことを聞くことができ、学ぶことができたため。
 - 事前に準備しておいた質問のみならず、ディスカッションを通して出てきた質問等の問題解決ができたから。
 - 新たな知識を得て、自分の中の原発への考えが固まった。
 - 話し手の喋り方が上手で、楽しく内容を理解できた。
 - 疑問が解決した。原子力発電のイメージが変化した。
- 自分の知らない違ったイメージは多少あったが、やはり国民の承認が大きな壁である事に変わりない。
- とても興味深い話ができしたが、議論の時間が少し足りなかった。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた 27名 (93.1%)
あまり聞けなかった 2名 (6.9%)
全く聞けなかった 0名 (0.0%)

2名を除き全員が「十分聞くことができた」と回答している。



(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

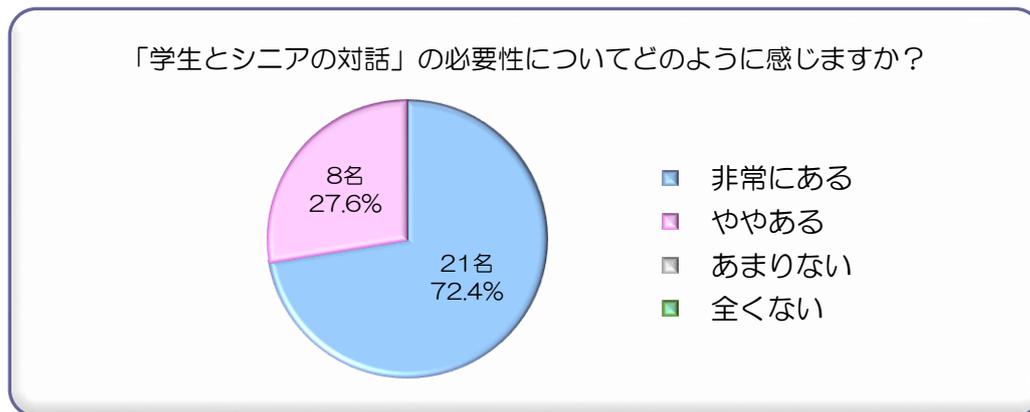
- ・ 電気技術者に求められることを知った。意識改革。
 - ・ 原子力への正しい理解が不足しているということが分かった。
 - ・ 今後の自分の指針。
 - ・ マスコミ以外からの正しい知識。
 - ・ 人の認識の問題で進められない技術があり、正しい知識を身につける必要がある。
 - ・ メディアを通しての報道の違い。原子力発電の正しい知識。
 - ・ 原子力発電の技術力の高さと安全性に対する知識が得られた。
 - ・ 原子力発電に対する自分の考えに自信がもてた。
 - ・ 原発に対する考え方
 - ・ 原子力に対する新しい知識を得ることができた。
 - ・ 原発への正しい理解。
 - ・ 福島第一原発の事故が起きた理由の他に、政治的な内面も知れたため。
 - ・ 原子力発電、放射線物質への正しい理解。広報が重要。原子力・放射線に対する研究。
 - ・ 一番得られたことは、原発稼働の問題点に関する知識を得ることができた点。
 - ・ メディア等の情報だけで物事を見ることは謝った理解につながる危険性があることを学ぶことができた。
 - ・ 自分達も有識者の方たちから正しい知識をご教授いただくことができ、今後とも有識者が正しい知識を流布していくことが重要だと感じた。
 - ・ 原子力発電所の現状の課題と発電量における重要性。
 - ・ メディアでは余り語られていない原子力発電の実情。
 - ・ 原子力の再稼働に向け経済面、環境面といった、あらゆる視野から判断することができた。
 - ・ 放射線の人体への影響。
 - ・ 原発でも負荷追従が可能であること。
 - ・ 原子力発電の必要性、課題等を理解した。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	21名 (72.4%)
ややある	8名 (27.6%)
あまりない	0名 (0.0%)
全くない	0名 (0.0%)

「非常にある」との回答が7割であった。

「ややある」8名の回答理由は、“誤った知識を持っている事もあるので必要か。ただ、中・高校生等年齢層を落とした方が良いと思う”、“自分達は何も知らないから。また、原子力反対側の意見も聞く必要を感じた”等であり、1名は無記入であった。



<理由>

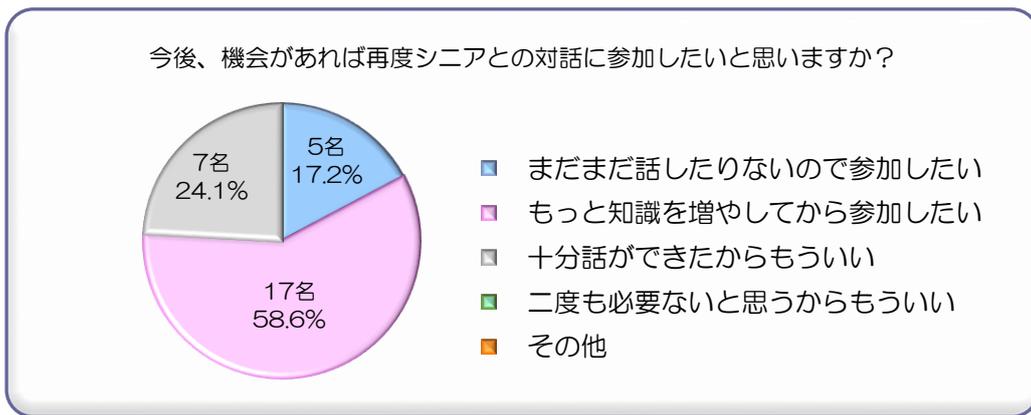
- 私も原発に対して誤った知識を持っていたから。
 - ・ 真剣に考える良い機会だから。
 - ・ 立場や世代の違う人々との意見交換は普段得られないような考え方やアイデアの元になると思うから。
 - ・ 偏った知識を避けるため。
 - ・ 分野の関連性は小さかったが、新たな知識を得ることができた。
 - ・ 原子力発電の認識として、どこに問題があるのかを理解できたから。
 - ・ 研究分野が異なる原子力に対し、正しい知識が得られたため。
 - ・ やはり大学にいても、個人で得られる情報には限界があるから。
 - ・ いろいろな角度から意見や知識を得ることが出来る。
 - ・ メディアでは放送されないような知識を得ることができた。
 - ・ 原発の良い面をもっと知ることで、メディアの情報だけに左右されなくなるから。
 - ・ 原子力は安全かどうか、メディアからの知識だけでなく、専門家からの意見も取り込み、正しい判断が出来るため。
 - ・ 電気工学を学ぶ者として、重要なことを考えるいい機会になったと感じたから。専門の方から得る知識は非常に貴重だと思った。
 - ・ 普段、得ることのできない情報を得ることが出来るため、必要である。しかし、シニアの方からの情報も鵜呑みにせず、自ら勉強し、考えていく必要がある。

- マスコミからの間違ったイメージが学生には広まっていると感じたので、正しい知識を身につけて社会に出て行くべきだと思った。
- 原子力発電発展の歴史を歩み、世界的に広い視野を持った意見をいただけたため。
- シニアの方々との会話を通じて得られた知識が多かった。長年、この分野に携わってきている人達の考えは非常に興味深かった。
- シニアの方は知識が深く、質問に対して返ってくる量が多い。(マスコミのような偏った意見でない)
- 誤った知識を持っている事もあるので必要か。ただ、中・高校生等、年齢層を落とした方が良いと思う。
- 自分達は何も知らないから。また、原子力反対側の意見も聞く必要を感じた。
- 自分達でアクションを起こす必要があるので、身につくことが多いと感じたため。
- 面と向かって考えてしゃべる経験は必要。
- 大学生に限らず、小中高等小さい頃から原子力を考える機会が必要である。
- 経験を積んだ人と話す機会を得られる。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	5名 (17.2%)
もっと知識を増やしてから参加したい	17名 (58.6%)
十分話ができたらもういい	7名 (24.1%)
二度も必要ないと思うからもういい	0名 (0.0%)
その他	0名 (0.0%)

「まだまだ話したりないので参加したい」が5名、「もっと知識を増やしてから参加したい」が17名で、「十分話ができたらもういい」が7名、「二度も必要ないと思うからもういい」、「その他」の回答はなかった。

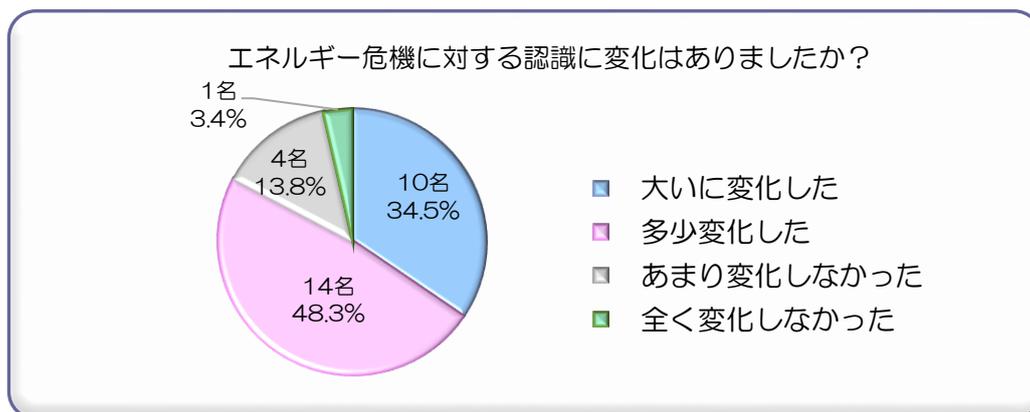


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	10名 (34.5%)
多少变化した	14名 (48.3%)
あまり变化しなかった	4名 (13.8%)
全く变化しなかった	1名 (3.4%)

「大いに变化した」の回答が10名、「多少变化した」の回答が14名であった。

「あまり变化しなかった」4名の回答理由は、“元々、原子力無しでのエネルギー供給は厳しいと考えていたため”、“自身が電力に感心があつたので、前後での原発の必要性についての考えの変化はなかった”、“ある程度知り得ている情報であつたので”、“講義等で知っていたため”であり、「全く变化しなかった」1名の回答理由は、“原発はやはり必要だということを再確認できたから”であった。



<理由>

- 原発は必要であると思っていた。しかし、思っているだけではいけないと思った。伝えることが大事。
 - ・ 地球温暖化を考えた場合に火力発電だけでは無理があるため、原子力が必要であると感じた。
 - ・ エネルギー供給の多様化の必要を感じた。
 - ・ 自然エネルギーだけだと、火力発電の発電量を増やさないといけないことが分かったから。
 - ・ 元々、原子力無しでのエネルギー供給は厳しいと考えていたため。
 - ・ 原子力発電の重要度を理解できたため。
 - ・ エネルギー自給率の低さを思い知った。
 - ・ 具体的に1日に損をしている額を知ることができたため。
 - ・ 知らなかったエネルギー資源の獲得技術を学ぶことができたから。
 - ・ 原発はやはり必要だということを再確認できたから。
 - ・ 原発の停止により、化石燃料への依存が強くなっているため。
 - ・ 化石燃料より、核燃料の方がエネルギー問題の解決につながると再認識できたから。
 - ・ 化石燃料は、100～250年程度で枯渇する、太陽光等は技術的に不十分。現状では、原子力発電が最も有望となる。
 - ・ 原発稼働できないことが、エネルギー危機に結びついていると思ったから。
 - ・ 原子力発電の原料であるウランは海水に含まれているため、コスト面をクリアすれば、今後数千年と使える。

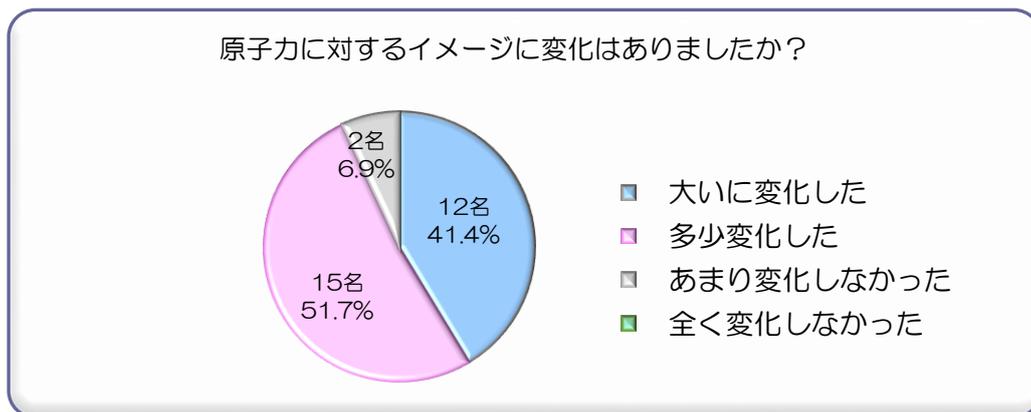
- 原子力発電を運転しないと、電力会社が潰れると聞いたから。
- 自身が電力に感心があったので、前後での原発の必要性についての考えの変化はなかった。
- ある程度知り得ている情報であったので。
- ウランが無くなる心配も、今後していかなければならないと思ったから。
- 講義等で知っていたため。

(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	12名 (41.4%)
多少变化した	15名 (51.7%)
あまり变化しなかった	2名 (6.9%)
全く变化しなかった	0名 (0.0%)

「大いに变化した」との回答が約4割、「多少变化した」との回答が約5割であった。

「あまり变化しなかった」2名の回答理由は、“原子力に安全なイメージを持っていたため”、“元々、原子力は必要であると考えていたため”であった。



<理由>

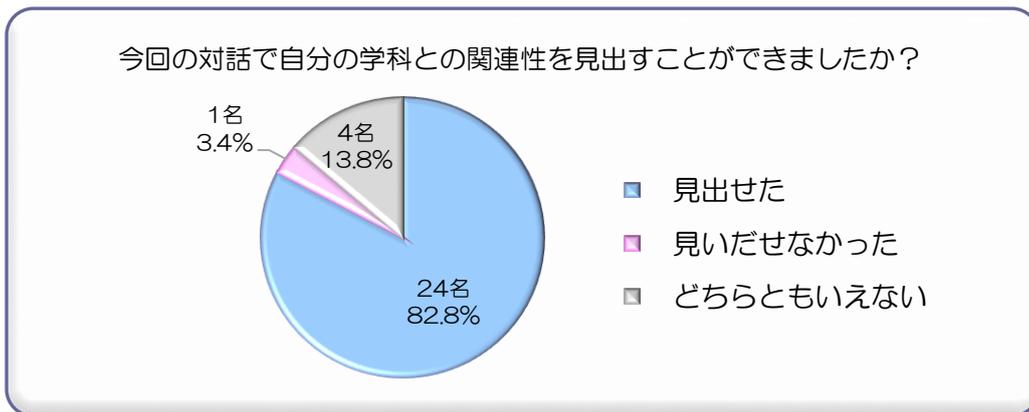
- 確率等考えると安全だと感じた。
 - 安全性の基準がしっかりしており、技術的問題はないということを知れた。
 - 悪い部分ばかりだと思っていたが、良い部分をたくさん知れたから。
 - 原子力に安全なイメージを持っていたため。
 - 安全性を広めていくことの重要性を再確認した。
 - 放射線と放射能の違いを知り、原発におけるその危険度が想像よりも低かったから。
 - 思っていた以上に、危なくないのかなと感じた。
 - 原子力に対するマイナスイメージを払拭することができた。
 - 対策をしっかりすれば、原発の危険性は自動車事故よりも確率的に低い。また、放射線による影響もとても小さい。
 - 元々、原子力発電は必要なものであると考えてはいたが、やはり危険なものであるというイメージがあった。しかし、今回の講演で正しい知識を身につけることができた。
 - 元々、原子力は必要であると考えていたため。
 - これまでの原子力に対してのイメージはマスメディアの意見と同じように停止させることを望んでいたが、原子力停止における環境面、経済面を踏まえた上で考えてみると、やはり再稼働は考慮に入れるべきだと考えた。
 - 原子力有無による経済利益の差がとても大きかった。
 - 人体への影響の低さは知らなかったなので、安全性についてのイメージが変わった。
 - 負荷追従が出来るという点からして、もっと割合を増やしてもよい。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 24名 (82.8%)
見いだせなかった 1名 (3.4%)
どちらともいえない 4名 (13.8%)

「見出せた」の回答が8割を超える。

「見出せなかった」1名の回答理由は、「物理学の話だと感じた。電力会社として、電気科の自分も少しは知っておくべきだと思う」であり、「どちらともいえない」4名の回答理由は、「技術的なことは私達の分野で間違いないが、技術ではなくイメージの変化という側面もあることが分かったため」等で、2名は無記入であった。



<理由>

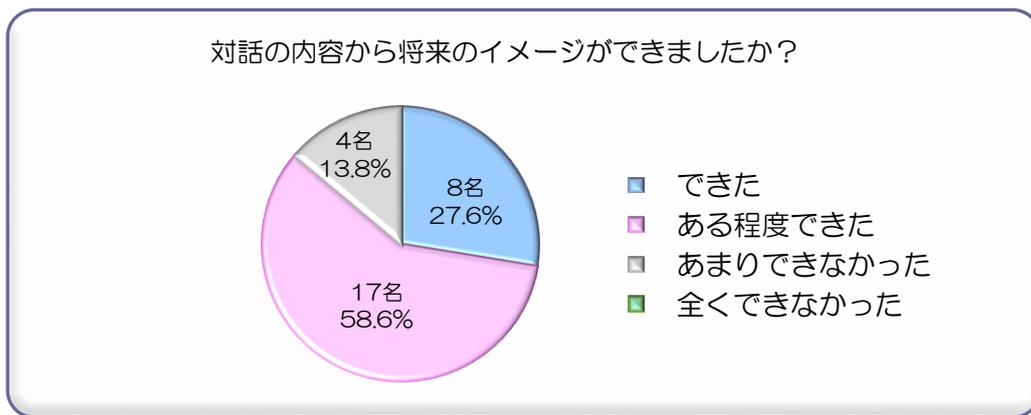
- ・ 制御による信頼性の向上に貢献出来ると思った。
 - ・ 今後、電力がどうなるかを考える機会になった。
 - ・ 施設管理の部分で役立てることを見出せたから。
 - ・ 自分は電力系の研究をしているため。
 - ・ 将来の電力供給がどう変化するかは、電気科にとって重要な事案だと考える。
 - ・ 原発はもしものことがあれば危険なものである。原発に頼らないエネルギー供給に関しては再生可能エネルギーに頼ることになる。そのためには、太陽光発電の発電効率向上等、電気科としての研究が大事になってくる。
 - ・ 電気エネルギーを語る上で、安定的かつ日本の準自給エネルギーとして存在する原子力は取り除くことが出来ないから。
 - ・ 電気と原子力は結びつけられるから。
- ・ 物理学の話だと感じた。電気科の自分も少しは知っておくべきだと思う。
 - ・ 技術的なことは私達の分野で間違いないが、技術ではなくイメージの変化という側面もあることが分かったため。

(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた	8名 (27.6%)
ある程度できた	17名 (58.6%)
あまりできなかった	4名 (13.8%)
全くできなかった	0名 (0.0%)

「できた」の回答が約3割、「ある程度できた」の回答が約6割であった。

「あまりできなかった」4名の回答理由は、“対話が原子力に関する内容だったため”、“原発が再稼働するために満たす条件が多過ぎるため、原発の将来性が見えなかった”、“原発には様々な考え方があるため”で、1名は無記入であり、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

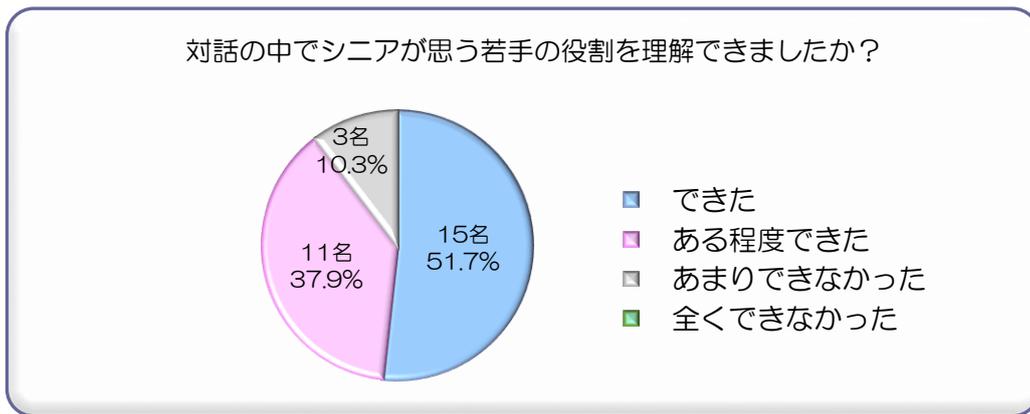
- メディアが変わらない、国民が変わらない限り、原発という素晴らしい技術を活かせない。
 - ・ 原子力についての理解を深め、周知する必要がある。
 - ・ 電源の分散が重要。
 - ・ 原発再稼働に向けてやっていく。
 - ・ 現状のエネルギー問題を一つ一つ見ていくと、技術革新などが起きない限り、原発再稼働が近いうちに行われるというイメージができた。
 - ・ 原発に対する意識を変化させ、再稼働するのではないかと感じた。
 - ・ 有限な資源にはいずれ終わりがあり、原子力はその時必要なのではないか。
 - ・ 必要性、安全性を認識することで、原発の重要性を理解し、再稼働するイメージが持てた。
 - ・ いずれ全原発の再稼働は果たされる事となるが、国民の納得が必要。
 - ・ 今後、原子力が稼働していく様子がイメージできた。
 - ・ 原子力は再稼働する。それが早いか遅いかの違い。
- 対話が原子力に関する内容だったため。
 - ・ 原発が再稼働するために満たす条件が多過ぎるため、原発の将来性が見えなかった。
 - ・ 原発には様々な考え方があるため。

(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた	15名 (51.7%)
ある程度できた	11名 (37.9%)
あまりできなかった	3名 (10.3%)
全くできなかった	0名 (0.0%)

「できた」との回答が約5割、「ある程度できた」との回答が約4割であった。

「あまりできなかった」3名の回答理由は、“質問するのみで、意見の交換があまり出来なかったため”、“自分達の質問だけで時間になってしまったため”、“原発が安全である事について、理解してもらいたい事は分かった”であり、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

- 原子力の利点や安全性をもっと一般の方にも理解してもらおう。
 - 正しい知識を広めることが私達の役割。
 - 柔軟な発想が必要とされていることが分かったから。
 - 世間に原発の認識を正しく伝えて行く。
 - 原発の再認識だと思う。将来的に、メディアに流されない意見を持つべきというのを感じた。
 - 知識や研究を行っている学生に原子力を理解してもらい、自分の周りの人々に拡散することが必要と理解した。
 - メディアによる偏った情報ではなく、正しい情報を持った上で判断を行っていくことが、若手の役割だと感じた。
 - 原子力の悪いイメージが一般市民に定着している現状で、若手の研究者が正しい知識を身につけていくことが大切だと実感した。
 - 原子力発電にも、またイノベーションが必要。
 - 原子力について理解し、考えることが役割だと思った。
- 質問するのみで、意見の交換があまり出来なかったため。
 - 自分達の質問だけで時間になってしまったため。
 - 原発が安全である事について、理解してもらいたい事は分かった。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？出来るだけ詳しくお答えください。

<理由>

- ・ 安全性に対して考えの違いがあった。発電所の構造を見ると、火力の方が災害に弱いと思った。
 - ・ 技術面だけでなく、広報も大事であると感じた。
 - ・ 先見の目が自分に必要だと感じた。
 - ・ 処分場の考えが、少し変わった。
 - ・ 原子力発電は思っていたよりも完成された技術であることを知り、今後も進めて行くべきだと感じた。
 - ・ 知識の量に違いがあるため、考え方に違いが多かった。背景まで知ることが出来たので、原子力発電の再稼働も一つの考えであることが分かった。
 - ・ シニアの考えを聞くことで原子力関係の問題が、自分が考えていたことより深刻であると考えた。
 - ・ 原子力に関する問題は、分野をまたいで検討していく必要がある。
 - ・ 原子力の危険度に対する認識は全く違った。原子力に将来性を感じた。
 - ・ 日本人という人格が原発反対に偏っている原因なのかなと感じた。原発事故は感性にとらわれやすい、かつ広まりやすいので、専門家と一般人の間に齟齬が生まれている。専門家の意見は背景から教えていただき、分かりやすく学べた。
 - ・ 現在の原発の在り方が間違っているという考えが強く伝わった。火力や再生可能エネルギーを用いた発電で賄っている現状を考え直さなければならないと感じた。
 - ・ 原発は必要だと考えていたが、それでも危険性をどう考えるかが課題であると考えていた。しかし、対話を進めることで原発の危険性 < 自動車事故であることが分かり、化石燃料の枯渇と合わせると、原発は稼働していく必要があるのではないかと考えるようになった。
 - ・ 原子力は危険というイメージがあったが、正しい知識を身につけることで、原子力の優位性を再確認できた。
 - ・ 一緒だと感じた。若手の人がこの先、社会を引っ張って行く必要があると思う。原発に対する考えが変化した。
 - ・ 原子力発電の重要性について、何となくだった部分をすごく明確にしてもらえた。今日、知ったことを改めて自分でまとめて勉強したいと感じさせていただき、とても参考となった。
 - ・ シニアの考えは、再稼働について多角的な視野で評価していた。マスメディアで一般的に言われる意見とは違って非常に興味深かった。
 - ・ シニアの考えと若手の考えは、そんなに変わらないと思う。シニアの方の話を聞くことで、原子力の安全への取り組み方について知り、もっと安心してよいと思った。
 - ・ 課題はイメージの払拭が重要と変化。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見等があれば自由に書いてください。

<理由>

- ・ たくさんの知識、考え方を吸収することが出来た、温暖化を防がないと、台風、豪雨等の被害が増えることを改めて感じた。
 - ・ 可能ならば、今後も続けるべきだと思う。
 - ・ 有意義な対話会だったので、後輩にも実施してほしい。
 - ・ 対話の際に、タイムキーパー等を用意した方が良かった。
 - ・ 今回、参加して良かった。
 - ・ このような講演は、一人一人の考えを改めることが出来る良い機会なので、ぜひ続けて行って下さい。
 - ・ 原発に関わる方から、メディアからの情報と事実に大きな差があることに驚いた。若手の技術者には、このような対話が重要であると考える。
 - ・ とてもいい経験ができた。
 - ・ とても良い時間を過ごすことができ、興味が深まった。
 - ・ シニアの方々と直接ディスカッション出来る今回の機会は、非常に貴重なものであったと考えた。
 - ・ 各グループの見方が様々で面白いと思った。
 - ・ 資料等では分からない事を気軽に質問する事ができたので良かった。原発の必要性を再認識できた。
 - ・ 原子力について話を聞いて良かった、ありがとうございました。
 - ・ かしこまった感じでなく、話しやすい場であった。

- ・ 大方良いと思うが、全体で達成したいテーマは決めておくべきかなと思う。